活動 1　地域づくり

インド

アーンドラ・プラデシュ州北部、スリカクラム県内
アーンドラ・プラデシュ州ビシャカパトナム市

多角的資源活用農法（DIFS）を通した農地利用と集水地域保全普及ー発展型地域住民主導マイクロウォーターシェッド・マネージメント

村の森、水、土を再生し、活用するプロジェクト、さらなる広がりを見せています。

研修風景

限られた自然資源を守り、活用していくことは、農村で暮らし続けていくためのいちばんの基礎となります。
ソムニードは、2007 年からアーンドラ・プラデシュ州北部、スリカクラム県で、個人ではなく流域（ウォーターシェッド）に暮らす人々が、一緒に自然資源の再生・管理や持続的な利用をおこなうことをめざしたプロジェクトを実施しています。

資源を「守る」、そして効率的に「使う」へ

村全体で自然資源の再生・管理をおこなう技術を普及すべく、2007 年よりプロジェクトに参加している村人の中から 15 人の指導員が誕生しました。指導員は、今まで自分が得た技術を指導するコツをソムニードから学び、近隣の村々で研修をおこないました。
また、水や土を効率的に活用し、1 年を通してよりたくさんの種類の作物を育てるために、農業を見直す研修や視察をおこないました。

村人たちによる農業の改善へ

2013 年度はいよいよ農業の改善を実践します。栽培活動や、収穫量、収支の記録なども村人たち自身でおこなえるよう、研修を実施します。
また、指導員による研修や視覚教材の作成を通して、資源管理のスキルを普及・拡大させていきます。

プロジェクトに参加する村が増えています！

2007 年 **5** 村

2012 年 **15** 村

スラム女性によるマイクロファイナンスを通じた相互扶助

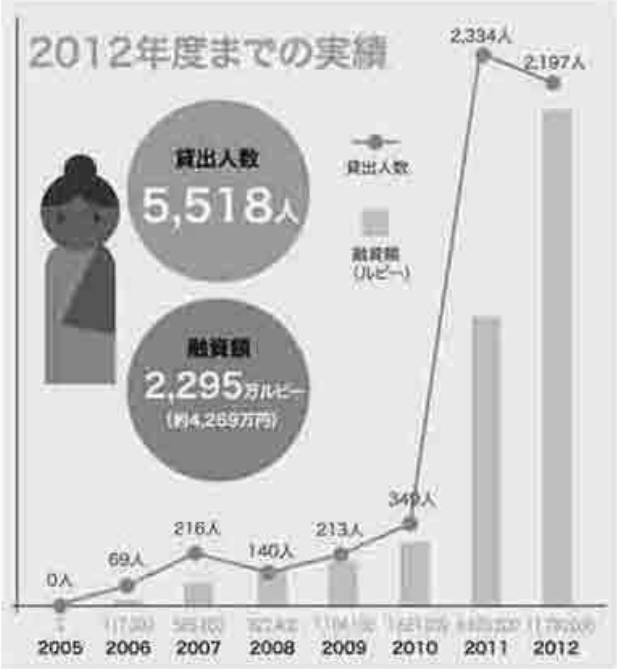
女性たちによる女性のための信用金庫、より多くの女性が参加できるように。

スラムに住む女性が自分たちで運営する小さな信用組合、ビシャカ・ワニタ・クランティ（VVK）。ソムニードは、VVK がスムーズな組織運営・融資業務をできるよう、ソフトウェア開発支援やスキルアップ研修を実施しています。

組合の規模が拡大！中長期的な視点をもった経営へ

2012 年度は組織運営・業務分析についての研修の結果、よりきめ細かいサービスを会員に対して提供できるよう、さまざまな見直しがおこなわれました。たとえば、スタッフの人数を増やして、会員が貯金や融資の受取・返済する際にスムーズに対応できるようにした結果、組合を退会する女性が減り、年間の融資額も大幅に増加しました。

このように組合の規模が拡大する中、中長期的な視点をもった経営をおこなう必要があります。2013 年度も、VVK の役員やスタッフに対する研修を必要に応じて実施します。



ソムニードの地域づくり

オラたちの森・水・土。自分で考えて、計画して、実行する

2007年8月に、5か村で始まったマイクロウォーターシェッド・プロジェクト。その内の一つのゴディヤパドゥという村は、マレ・サワラ族という山岳少数民族26世帯が暮らしています。

当時、村のため池は「ため池」とは名ばかり、沼か空き地か分かりませんでした。50年ほど前からあったのですが、水は無きに等しく、稲作も雨に頼るしか術はありませんでした。

「水がないなぁ」「雨が降らないかなぁ」

空をずっと見上げている村人たちの姿は、毎年雨季になるとみられ、その中には村の有力者のひとりであるラマラオもいました。一旦雨が降ると、水は勢いよく山の土を削り落し、川となって村の外へと流れ出していきます。

ただ流れていく水を眺めているのではなく、溜めて使えるようにして、そして乾いた土を潤し、木を育て作物を栽培したい―ラマラオたちの願いに対して、ソムニードは「考えて実行する力」を身に付けられるよう、研修に次ぐ研修をおこなってきました。

当初は、「オラは貧乏で何にもない。何かもらえたら嬉しいんだけど？」とあからさまに手を出して、ソムニードに接触してきたラマラオ。しかし、1年2年と研修に参加し、自分たちでため池も整備していく中で、そのような発言は無くなりました。ため池も、今では一年中水をたたえています。ラマラオの田んぼでも、水の管理がしやすくなり、米の収穫量が18倍に増えました。更に、裏作としてヒマワリや豆も栽培しています。そしてある日、ラマラオが私たちに自慢げに見せてくれました。

「オラが自分で作ったんだ」

それは、自分で作った小さなため池でした。水を溜めるにはどこに作るか、どれだけの大きさが必要か。全て自分で考えて作っていました。ラマラオは、今では、村の青年リーダーを支える縁の下の力持ち。青年リーダーが村人の意見を集めて決断しなければならない時は、必ず「それで大丈夫」と、リーダーの背中を押しています。

ゴディヤパドゥ村
ラマラオ氏